



スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2017年4月27日発行 第73号

居場所づくり勉強会 第45弾！ インクルーシブ教育を考える

今度の勉強会では、インクルーシブ教育について考えてみたいと思います。

「インクルーシブ教育」という言葉を耳にすることがあると思います。「インクルーシブな社会」という使われ方もあります。昔は、統合教育か分離教育かということをめぐる、激しい意見の対立があったこともありました。「インクルーシブ教育」という考え方は、今までの考え方と同じなのでしょうか？それともちがうのでしょうか？

また、障害を持つ人の教育のあり方については、同じ障害を持つ人の間でも、いろいろな考え方のちがいもあります。それぞれの人の学校時代の経験によっても、意見がちがってくるのかもしれない

「インクルージョン」（つつみこむこと）という言葉の反対の言葉は、「エクスクルージョン」（排除すること）です。インクルージョンについて考えるためには、その反対の排除や「差別」というものについても、少し深く考えてみる必要があると思います。差別がなぜ、起こるかということについても、実は、いろいろな考え方があります。

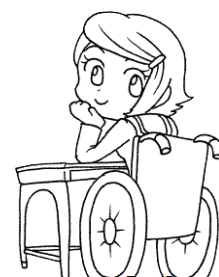
もしかしたら、これが絶対正解だという考え方はないのかもしれない。

どんな社会を作りたいのか？どんな「学び」を大切にしたいのか？障害を持つ人、持たない人、障害のちがいなど、それぞれの立場からの意見や考えを、だしあって、「インクルーシブ教育」のめざすところについていっしょに、考えていけたらと思います。

たくさん、参加してくださいね。

京都インクルーシブ教育を考える会 永井良和

- ★ 日時：5月30日（火）
14:00～16:00
- ★ 場所：日本自立生活センター事務所（油小路）
- ★ 参加費：無料
- ★ 担当：小泉



日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当:岡山・橋口

TEL:075-682-7950 E-mail:jcil-kyoto@jcil.jp URL:http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html

お天気にめぐまれた！

お花見でした。



4月5日に梅小路公園でお花見を行いました。

お天気にめぐまれ、あたたかい春の日差しを浴びながら、立林さんの司会進行のもと、桜の花とお弁当、お団子と歌で楽しい時間を過ごせました。来年もやりたいですね～。

こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ

日 時：5月16日（火）

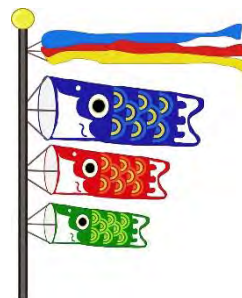
17：00-18：15（OPEN16：45）

場 所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料

*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。



精神保健福祉法が改正される！？ で、それで？Part61

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



障害者制度改革について
勉強中のタクオさん
小難しいこともやさしく(?)解説



桜は散ったけど、いい天気で暖かい日が多いね。

そうやね。今日はなんのおはなしやろ？

へえ。精神保健福祉法...あんまり知らへんけど、
いちおう精神障害のある方への支援を定めた法律やんね？

でも、なんやろ？

「措置入院」か。相模原事件の植松容疑者が、措置
入院歴があったって報道されてたやつやね。

そうなんや。なんか、変な感じやね。

自己愛性パーソナリティ障害
...精神障害ではないんやね。

精神病じゃない人を、措置入院させちゃってる
んやね。
なんか、やばい人は精神病院に入れとけ、って感
じて、いややなあ。

削除！？

つまり、厚労省も、措置入院が犯罪対策になっ
たらいけない、と認識してるってことやね。

うん。でも朝晩は冷えるときもあるから、気をつけないとね。

今日は、今、国会で審議中の、精神保健福祉法改正案の話をするよ。かなり問題含みの改正案なんだ。

いちおうは、そうだね。精神障害のある方が、適切な支援や
治療を受けながら、この地域社会で暮らし続けることができる
ための法律のはず。でもね、..

自傷・他害のおそれのあるある人を、本人が嫌がっても強制的
に精神病院に入院させる「措置入院」制度を定めた法律でもあ
る。

そう。今回の改正案は、まさにあの相模原事件をきっかけとし
ているんだ。あの事件は、措置入院解除後に、容疑者が野放し
にされたから起きた事件だ、とみなされて、措置入院後には警
察とかも含めた監視体制を設けようとしてるんだ。

そうそう。かなり問題含み。そもそも、あの相模原事件の容疑
者は、事件後の詳しい精神鑑定によって、自己愛性パーソナリ
ティ障害とのみ診断されて、精神障害があるとは診断されな
かったんだ。

うん。病気ではなく、ある種の性格の傾向のこと。精神病では
なかったのだから、そもそも、最初に措置入院させたことが、
大きな問題。なのに、今回の事件を受けての政府の対応は、そ
こはまったく問題とされてない。

そう。結局政府は、精神病院を治安対策に利用しようとしてるんだ。
病院が、治療するところではなく、監視するところになってしまう。今
回の改正案の趣旨もまさにそれ。改正の趣旨として「相模原市の障害
者支援施設の事件では、犯罪予告通りに実施され、多くの被害者を出
す惨事となった。二度と同様の事件が発生しないように」と書かれて
たんだ。けど、なんと、厚労省は、この趣旨文を後から削除。

そう。そもそも相模原事件対策として、措置入院に焦点を絞ってるのが
大きな間違い。こんな改正案はいらないし、事件の要因の分析と対策は
もっと慎重に行われたいといけないんだ。

ご報告

第31回「国際障害者年連続」シンポジウム 相模原障害者殺傷事件 どう受け止め どう考えるか

2017年3月18日(土) 京都テルサ 大会議室にて、第31回「国際障害者年連続」シンポジウム 相模原障害者殺傷事件 どう受け止め どう考えるか を開催しました。

第一部の最初は、やまゆり園元職員の西角純志さんに、西角さんが直接ケアをしたことのある男性7名を中心に、19名の犠牲者のお話をお話いただきました。

西角さんのお話のあとは、神奈川新聞の取材で明らかになった、19名のエピソードを読み上げ、会場の皆さんで黙とうをささげました。

次に、知的障害者の当事者団体、ピープルファースト横浜の小西勉さんは、やまゆり園入所者自身の声をきいてほしいと要望活動をしていることをお話いただきました。

続いて、入所施設の運営法人、同愛会の大川貴志さんは、施設の在り方を自己批判的にお話いただきました。

第二部では、様々な立場の方々に語っていただきました。ピープルファースト京都のメンバー5名、岡本晃明記者(京都新聞)、平田義さん(重度心身障がい者通所施設シサム所長)、佐々木和子さん(京都ダウン症児を育てる親の会)、松波めぐみさん(大学非常勤講師)、JCIL 当事者3名、猿渡達明さん(元相模原市民、脳性マヒ者の会一歩の会)から、個々の多様な思いをお聞きしました。

第三部前半は、熊谷晋一郎さん(東京大学准教授・当事者研究)に、暴力というのがどういう時に起きるのかを、この一つの事件から説明するのではなく、研究結果から一般的に言えることを教えていただきました。

後半の尾上浩二さん(DPI日本会議副議長)は、インクルーシブな社会を作っていくことの重要性を強調されました。

当日は、約250名と予想を上回るご来場があり、それだけたくさんの方が問題意識をお持ちだったということだと思います。このシンポジウムは、何か結論を出すという趣旨ではありませんでしたが、相模原事件に関する様々な問題、いろんな立場の人々の思いを、たくさんの方々と共有できたのではないのでしょうか。

詳細は JCIL 本体ブログへ

<https://blogs.yahoo.co.jp/jcilhontai8484>

